

「大草原！わんぱく親子塾」

【主催】 国立阿蘇青少年交流の家

【後援】 熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・大津町教育委員会
菊陽町教育委員会・阿蘇市教育委員会

【期間】 【夏編】 平成22年7月10日(土)～7月11日(日) 1泊2日

【秋編】 平成22年10月2日(土)～10月3日(日) 1泊2日

【会場】 国立阿蘇青少年交流の家及びその周辺

【参加者】 【夏編】 保護者44名, 幼児42名, 小学生10名,
一般10名 計106名

【秋編】 保護者34名, 幼児31名, 小学生8名,
一般14名 計87名

【講師】 【夏編】 よみたん自然学校 代表 小倉 宏樹 氏

【秋編】 東京成徳大学 准教授 浦田 憲二 氏

【検討委員会委員】

福岡教育大学 名誉教授

熊本県教育庁 社会教育課長

学校法人真宗大谷学園 九州大谷短期大学 准教授

熊本市子ども未来局子ども支援部 保育幼稚園課 清水保育園園長 吉村るり子 氏

大津町教育委員会 陣内幼稚園園長

菊陽町教育委員会 学務課学務係主事

阿蘇市教育委員会 教育課総務係長

阿蘇中央幼稚園園長



横山 正幸 氏

小野 賢志 氏

末寄 雅美 氏

今村 美子 氏

山本 康敬 氏

渡邊 和代 氏

山本由紀子 氏

1 趣 旨

子どもたちの社会性や豊かな人間性の育成を図る上で低年齢時に自然体験・生活体験・交流体験等の機会を提供することが重要である。そこで、幼児期のころから様々な体験活動を経験させるとともに、保護者に低年齢時に体験活動を提供することの重要性を理解していただくことを目的とする。

2 目 標

- 幼児に発達段階に応じた自然体験を経験させる。
- 保護者に幼児期のころから自然体験や生活体験・交流体験を多く経験させることの重要性を理解させる。

3 事業展開

(1) 研修プログラム

【夏 編】

日 程	午 前	午 後	夜
7/10（土）	10：00受付 ○開会式 ○アイスブレーキング	○野外活動 * トウモロコシ種まき	○野外調理 ○野外テント泊
7/11（日）	○野外活動（子ども） 講 演（保護者） ○閉会式 11：00～	* オリエンテーリング	

【秋 編】

日 程	午 前	午 後	夜
10/2（土）	9：00受付 ○自然散策（南阿蘇方面）		○レクリエーション・絵本の読み 聞かせ（子ども） ○懇談会（保護者）
10/3（日）	○野外活動（子ども） 講 演（保護者） ○野外調理（収穫祭） ○閉会式 13：30	* トウモロコシ収穫	

(2) 目標達成のための手立て

① 親子で参加できるプログラムの工夫

ア 保護者向きの講演

子どもと大人を分けて行うプログラムを取り入れ、保護者には講演を取り入れた。TV番組に出演された経験を持つ小倉氏、自然体験活動を専門的に研究されており、幼児期における自然体験活動の実践を数多く経験されている浦田氏を招き、日頃の実践や経験を通した講演をしていただいた。

イ 子どもプログラムの開発

夏編では、草原の中で行うオリエンテーリングを計画した。実際は、天候不順のため室内を中心としたオリエンテーリングを実施した。秋編では、夏編で種を蒔いたトウモロコシの収穫を行った。

ウ 大人も楽しめるプログラムの開発

夏編では、簡単に楽しめるプチキャンプとテント設営や野外調理など保護者（特に父親）の活躍の場を取り入れることをテーマの一つとした。また、秋編では、南阿蘇での自然散策を取り入れ、大人も楽しみながら活動できるように工夫した。

② 阿蘇の特性を生かし、季節に応じたプログラムの開発

ア 草原の活用

夏編では、草原でのテント泊を行った。また、開会式やアイスブレーキング、オリエンテーリングも草原で行い、自然に子どもたち同士が遊んだり、交流したりできるように工夫した。

イ テント泊

実際に電気もテレビもない中で子どもと一緒に寝るという経験をさせることで、普段とは違う



野外調理の様子

不便ではあるが、思い出に残る体験を味わえるようにした。また、今後自分たちだけでもテント泊ができるように、保護者に指導をしたうえで、実際にテントを立てるという作業を自分たちで協力しながら行わせた。

ウ トウモロコシの栽培

阿蘇はトウモロコシの産地であるため、研修指導員の協力を得ながら施設の近くに畑を借り、夏編で種を蒔き、秋編で収穫するという夏編から秋編へと繋がるストーリー性を持たせるようにした。また、天候などの影響で収穫時期がずれたり、虫が入って収穫できなかったりしたときのために3種類のトウモロコシを植えた。



トウモロコシを収穫する様子

エ 自然散策

地元のガイドさんに協力を依頼し、木の実を収穫しながら自然散策を行った。また、途中で草花や木、虫などの名前や特徴など様々な知識を教えてもらいながら歩き、大人も楽しめるように工夫した。場所は、安全性や休憩場所、緊急時のエスケープルートが確保できる場所を選定した。

オ 野外調理

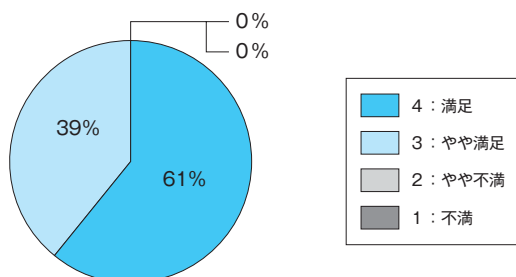
夏編では、阿蘇の夏野菜を使ったカレー作りを行った。秋編では、収穫したトウモロコシを使ってのコーンスープ作りとバーベキューを行った。

4 結果

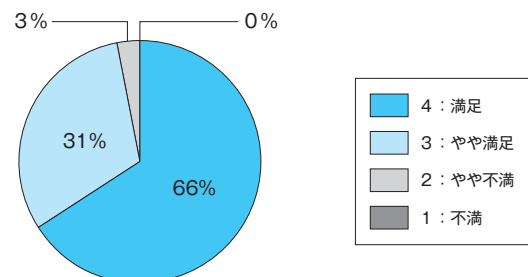
参加者の事後アンケート結果は以下の通りである。

【夏 編】

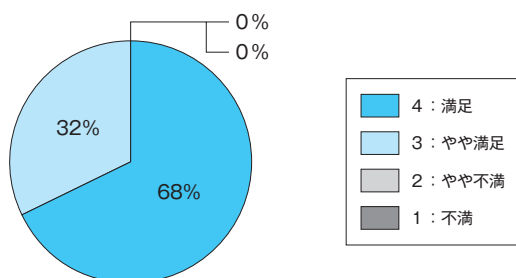
(1) 研修全体を通してどうでしたか。(全体の満足度)



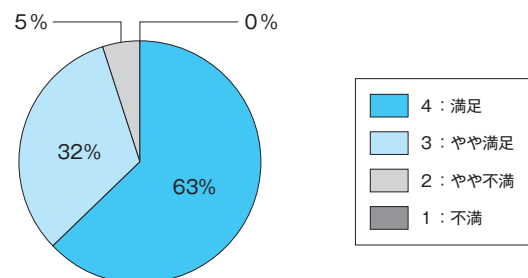
(2) 研修での活動はどうでしたか。(研修内容)

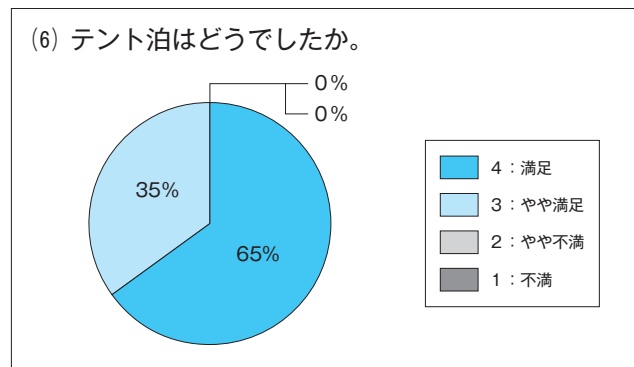
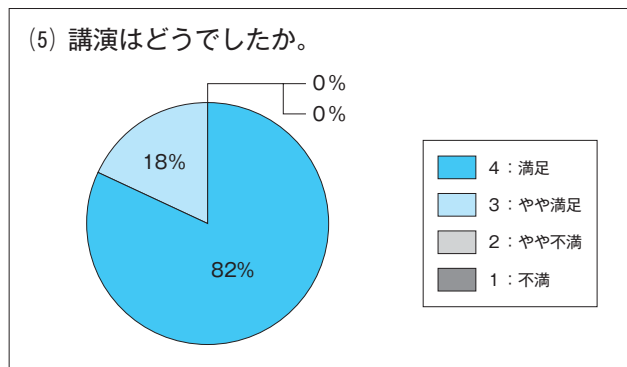


(3) 親子での種まきは どうでしたか。



(4) 野外調理はどうでしたか。



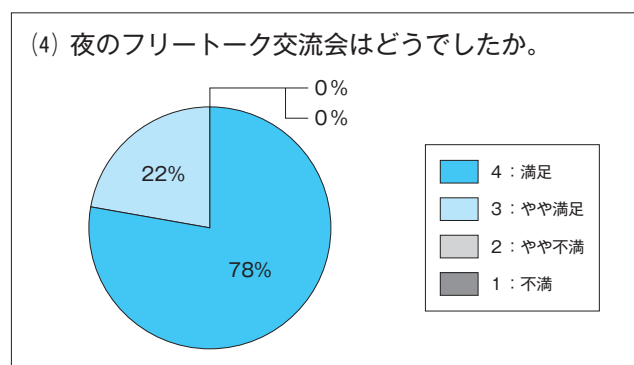
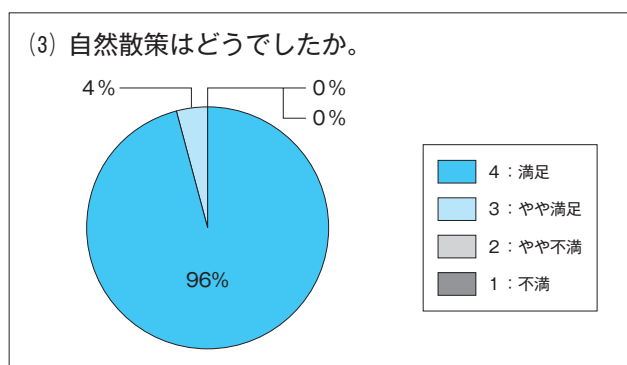
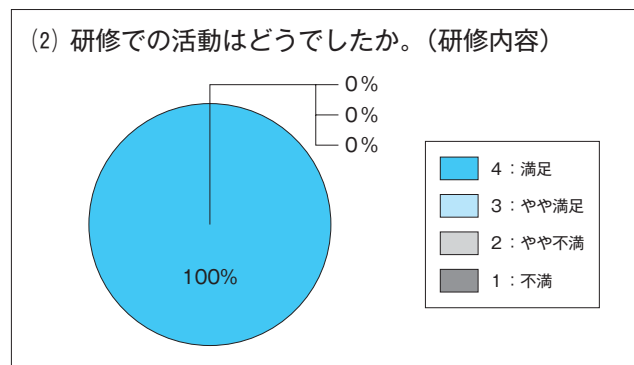
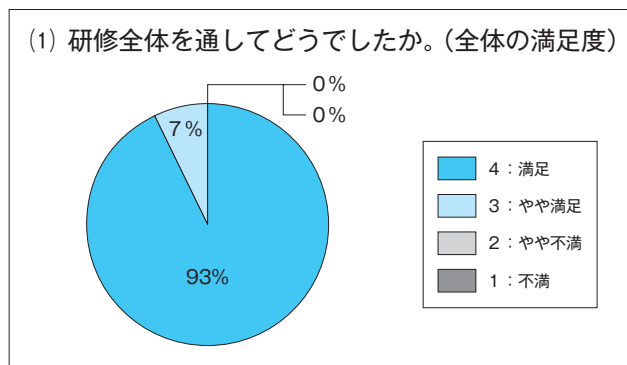


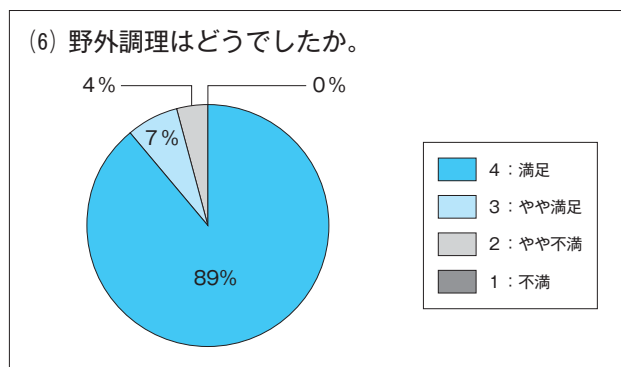
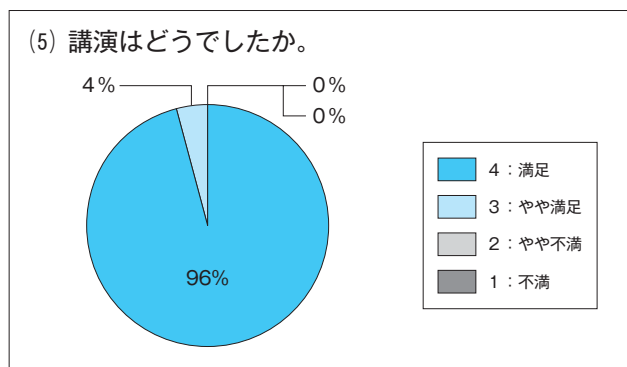
【参加者の声】

- 私にとっても初めての経験で、畑に入ったことも自然の中で虫をいっぱい見たことも感動しました。(種まき)
- 子どもに野菜を切ってもらったり、火をおこす手伝いをしてもらったり、普段できないことができてよかった。(野外調理)
- 草原でのテント泊、子どもは寝ていましたが、親は自然の力を肌で感じる事ができました。最高の思い出です。(テント泊)
- みんなで真っ暗なテントの中で寝たことは、子どもたちも絶対忘れないと思います。(テント泊)
- 幼児期の自然体験活動の大切さや小さいころから子どもたち自身で考え、行動させることの大切さを改めて考えさせられるよい機会となりました。(講演)
- よく動物園や遊園地などテーマパークに連れて行くのですが、それよりも自然の中でのびのびと遊ぶ方が生き生きとしている感じがしました。(研修に参加しての感想)



【秋 編】





【参加者の声】

- 日頃できない体験ができたことに参加してよかったと思い、子どももがんばって登っている姿にたくましさを感じました。(自然散策)
- 様々な子育ての悩みを交流できてよかったです。(保護者交流会)
- 危険なことはやらせないと思っていましたが、何事も経験させることが一番だと感じました。親もともに楽しむことが大切だと知りました。(講演)
- 夏に植えたトウモロコシを食べることができ、親子ともに思い出に残るバーベキューとなりました。(野外調理)
- 子どもが3時間以上も歩き通すことができたこと、ベッドで一人で眠れたこと、他の子どもたちとキャッキャはち切れんばかりの笑顔で遊んだこと、本当に良い経験ができました。
(参加しての感想)
- 本当に子どもたちが喜んでる姿を見て、親まで喜びが伝わってきて感謝しています。自然から自分も昔学んでいたことを子どもに伝えていきたいです。(参加しての感想)



野外調理の様子

5 成果と課題

(1) 成 果

- ① 子どもたち同士の交流体験の深まりが見られた。夏編に参加した子どものなかには、そこでできた友だちと再会できることを楽しみに秋編に参加してきた子どもも少なくなく、夏編参加者の6割が秋編にも参加した。
- ② 参加者のなかには、夏編で一緒にグループになった参加者と事業後に連絡を取り合い、一緒に野外活動に出かけている家族もみられた。
- ③ 自然散策やテント泊などまた経験したい、させたいと感じている保護者が多かった。
- ④ 講演では、夏編・秋編ともに保護者からの評価が高く、幼児期のころから自然体験活動を経験させることの大切さや子どもたちに様々なこと経験させることの大切さなどを理解し、今後実践しようとする意欲が見られた。保護者に対する目的は、ある程度達成できたと考える。
- ⑤ 自然散策で4時間の道のりを子どもが自分の足で歩き通した姿など普段の生活と違った姿を見ることができたことに満足を感じている保護者が多かった。



自然散策でドングリを見つけた！

(2) 課 題

- ① ボランティアの子どもへの接し方や安全管理能力には、大きい個人差が見られた。事前にボランティア研修を行うなどボランティアの専門性を育てることが必要であると感じた。
- ② 今後は、子どもと保護者を分けて行うプログラムを増やしていきたい。更なる幼児期に応じたプログラムの開発と保護者プログラムの開発が必要である。
- ③ 今回は夏編、秋編ともに天候にあまり恵まれなかった。自然体験活動を行うのであれば野外での活動が多くなるので、雨天プログラムの充実や雨天対策の事前準備が必要である。